

DROGA

DŌ

歴史をただ「知る」だけでなく、音楽を通して「感じる」時間。敦賀から世界へつながる“人道の物語”。忘れがたい感動の一夜を、一緒に。

DROGA DŌ、国境を越え人々の記憶と希望を音楽でたどる“記憶の道”。ホロコーストの記憶、消えた隣人たちへの想起、そして人間の尊厳の回復。クラシック音楽の名曲とともに、人道的勇気によって繋がれた人々の物語を音楽で紡ぎます。

出演

アニャ・カルポヴィッチ (フルート)
クリスティーナ・レイコ・クーパー (チェロ)
アリツィア・キェルザルスカ (ファゴット)
川口 成彦 (ピアノ)

クラシックコンサート

DROGA DŌ – 記憶の道

2025.11.1 Sat 18:00-19:30

(17:30開場)

会場：人道の港 敦賀ムゼウム 研修室

入場無料(申込不要)・定員 50名(先着順)

人道の港 敦賀ムゼウムリニューアルオープン5周年

みる しる わかる ムゼウムDAYS

◎2025年11月1日(土)・2日(日)・3日(月・祝) ◎入館料 無料

◎開催時間 9:00～19:00まで開館延長 (※最終入館は18:30まで)

914-0072 福井県敦賀市金ヶ崎町23-1 Tel.0770-37-1035





アニャ・カルポヴィッチ（フルート）
DROGA DŌ Festival芸術監督、国際的に活躍するフルーティスト。ポーランド文化功労勲章やフリデリク賞に輝く注目の音楽家。



クリスティーナ・レイコ・クーパー（チェロ）
ジュリアード音楽院博士号取得、テルアビブ大学客員教授。世界の舞台で幅広く活動し、新作初演や巨匠との共演を重ねるチェリスト。



アリツィア・キェルザルスカ（ファゴット）
NFMヴロツワフ・フィル首席奏者、ルトスェア五重奏団創設メンバー。豊かな音楽性で世界各地の聴衆を魅了するファゴット奏者。



川口 成彦（ピアノ）
ショパン国際ピアノコンクール入賞、フォルテピアノを専門とする俊英。国内外の音楽祭に招かれ、繊細かつ深みある演奏で注目を集めるピアニスト。

クラシックコンサート

DROGA DŌ – 記憶の道

2025.11.1 Sat 18:00-19:30

(17:30開場)

会場：人道の港 敦賀ムゼウム 研修室 入場無料(申込不要)・定員 50名(先着順)

ポーランド語で「道」を意味する「DROGA」と「～へ」の意味を持つ「DŌ」。そして、「DŌ」は日本語の「道」を意味し、また、多くの言語で音階の最初の音を連想させます。こうしたかけ言葉から生まれた「DROGA DŌ」は「音楽の道」を表しており、ポーランドとリトアニアを経て日本、そしてイスラエルなどにたどり着いたユダヤ難民たちのたどった道のりを反映しています。

ワルシャワの音楽祭「Warsze Muzik」を主宰するフルーティスト、アニャ・カルポヴィッチを中心に、ポーランド・日本・イスラエルを代表する音楽家たちが、かつてポーランド孤児やユダヤ難民を受け入れたまち敦賀に集まり、美しく心に迫る旋律を通して、歴史と記憶が響き合う特別なひとときをお届けします。

プログラム

M.ヴァインベルク：2つのマズルカ（1933）

A.タンスマン：ファゴットとピアノのためのソナチネ（1952）

池内友次郎：日本古謡によるバラード（1936）

J.アクロン：ヘブライの子守歌（1919）

G.フィテルベルク：ピアノ三重奏曲 作品10より（1901）

プログラムについて

プログラムの幕を開けるのは、若きミェチスワフ・ヴァインベルク作曲による2つの「マズルカ」である。1939年9月に包囲されたワルシャワから東側に逃れることになる彼がその何年も前にワルシャワで書いた作品だ。続いてお届けする超絶技巧的作品「ファゴットとピアノのためのソナチネ」は、ポーランド系ユダヤ人でパリに移民したアレクサンデル・タンスマンが1952年に書いたもの。その第2楽章では言葉のない哀歌の性格を持った、ぐっと身にせまる歌が奏でられる。これに続く「日本古謡によるバラード」は1936年に池内友次郎が作曲したもので、時間の流れを穏やかに受け入れる表現が特に注目される。ジョゼフ・アクロンの「ヘブライの子守歌」は、まるでリトアニアの狭い路地で、夕方、とある家の窓からふと聞こえてきたかのような風情があり、杉原千畝やヤン・ズワルテンダイク、タデウシュ・ロメルら3人の外交官の勇気によって救われた子どもたちの姿を彷彿とさせる。演奏会を締めくくるのは、グジェゴシュ・フィテルベルクの「ピアノ三重奏曲 ヘ短調」作品10。傑出したユダヤ系ポーランド人作曲家であり、第3楽章のエレジーは特に美しい。

アニャ・カルポヴィッチ

協力：  ADAM MICKIEWICZ INSTITUTE

 ポーランド広報文化センター
INSTYTUT POLSKI TOKYO

 oto foundation

後援：駐日ポーランド共和国大使館 駐日イスラエル大使館

